廿日市市景況調査 （2018年4～6月）

◇平成17年11月の市町村合併後は、旧廿日市市（合併後の区域）の調査結果になります◇

全国の６月景況「緩やかな回復基調続くも足踏み。先行きは横ばい圏内の動き」

６月の全産業合計の業況ＤＩは▲１５．４と、前月から▲１．８ポイントの悪化。原材料費や燃料費上昇による負担増を指摘する声が多く寄せられたほか、深刻な人手不足や消費者の節約志向、さらに、平年より早い梅雨入りの影響により、小売業、サービス業の業況感が悪化した。他方、好調な電子部品や産業用機械、自動車関連に加え、建設業も堅調に推移している。中小企業の景況感は、総じて緩やかな回復基調が続いているものの、足踏み状況がみられる。

先行きについては、先行き見通しＤＩが▲１３．３（今月比＋２．１ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。個人消費の持ち直しやインバウンドを含めた夏の観光需要拡大、生産や設備投資の堅調な推移への期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響の深刻化や、燃料費・原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁遅れ、米国の保護主義的な関税措置の影響など世界経済・貿易に対する先行き不透明感を懸念する声も多く、中小企業の業況感は横ばい圏内で推移する見通し。

会議所管内の４～６月景況「全国水準に近づくも、原材料仕入額・人材不足は継続」

前年同期比では、全産業合計の総合業況ＤＩが▲２０．８と、前回調査（３０年３月▲１６．９）からマイナス幅が３．９ポイント増加した。

産業別の業況ＤＩでは、前回唯一プラス値であった製造業が再びマイナスに転じた（１１．８→▲２５．０）が、卸小売業でマイナス幅が１５．６改善（▲５５．６→▲４０．０）し、建設業（▲２８．６→０．０）と飲食・サービス業（▲１８．２→０．０）ではゼロ水準まで改善されている。

向こう３ヵ月（７～９月）の先行き見通しでは、全産業合計の総合業況ＤＩが▲１１．３と前回調査（３０年３月▲２３．３）からマイナス幅が１２．０ポイント改善した。

産業別の推移では、製造業でマイナス幅が２７．４ポイント増加（▲５．９→▲３３．３）し、建設業では４５．７ポイント改善され数値がプラスに（▲３５．７→１０．０）、卸小売業ではマイナス幅が１８．３ポイント改善（▲３３．３→▲１５．０）され、飲食・サービス業はゼロ水準まで改善（▲１８．２→０．０）する見通しとなった。

全産業の景況推移、水道光熱費や燃料代を含む「原材料・仕入価格上昇に伴う採算性」「人材不足・人件費増加傾向」などは全国・県内調査と同様の動きだが、前回調査に続き「飲食・サービス業」を中心とした緩やかな回復傾向が覗える。

以下、産業別の各事業所から寄せられた、景気動向の要因や業界動向など。

【製造業】	『製造コスト増加を見込む』『仕入れ原価の上昇』『全体的に受注額が減少』
【建設業】	『原価の高騰』『完成工事の減少』『年度変わりの谷間』『先行きは受注増を見込む』
【卸小売業】	『業務システム化導入（予定）』『売上額の減少』『顧客減少』『前年度が悪すぎた』 『住宅建築など、木材利用が減少』『全体的な需要量の減少を感じる』 『競合店の出店など、外部環境の変化』『時季的に閑散期、需要期に期待』 『人件費・広告料等が増加』『サービス業（部門）の好転を見込む』『仕入価格上昇』
【飲食・サービス業】	『仕事量はあるが競合も多く、利益率の確保や独自販路も開拓している』 『フードバレーはつかいち、ハツカマルシェに参加』

業種別景況概要	全国（６月）		廿日市　４～６　月と先行き見通し									
	全産業		全産業		製造業		建設業		卸小売業		飲食・サービス業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
収入･売上	▲ 10.1	▲ 8.3	▲ 17.0	▲ 5.7	▲ 16.7	0.0	0.0	40.0	▲ 40.0	▲ 35.0	9.1	0.0
採　　算	▲ 15.0	▲ 14.3	▲ 17.0	0.0	▲ 16.7	16.7	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 45.0	▲ 20.0	27.3	27.3
仕入単価	▲ 42.2	▲ 37.0	▲ 52.8	▲ 43.4	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 60.0	▲ 50.0	▲ 55.0	▲ 35.0	▲ 45.5	▲ 54.5
雇用人員	21.7	23.1	17.0	18.9	25.0	25.0	20.0	20.0	10.0	15.0	18.2	18.2
業　　況	▲ 15.4	▲ 13.3	▲ 20.8	▲ 11.3	▲ 25.0	▲ 33.3	0.0	10.0	▲ 40.0	▲ 15.0	0.0	0.0

※ 全国調査は【 日本商工会議所LOBO調査 】をご参照ください　　（ 対象 169 社　回答　53　社 ）

廿日市市景況調査（2018年4～6月）

●ＤＩ値（景況判断指数）について

ＤＩ値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断状況を表す。
ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合いが多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合いが多いことを示す。
従って、売上など実数値の上昇や下降を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。
※ＤＩ＝(増加・好転などの回答割合)―(減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転)―(悪化)　売上：(増加)―(減少)

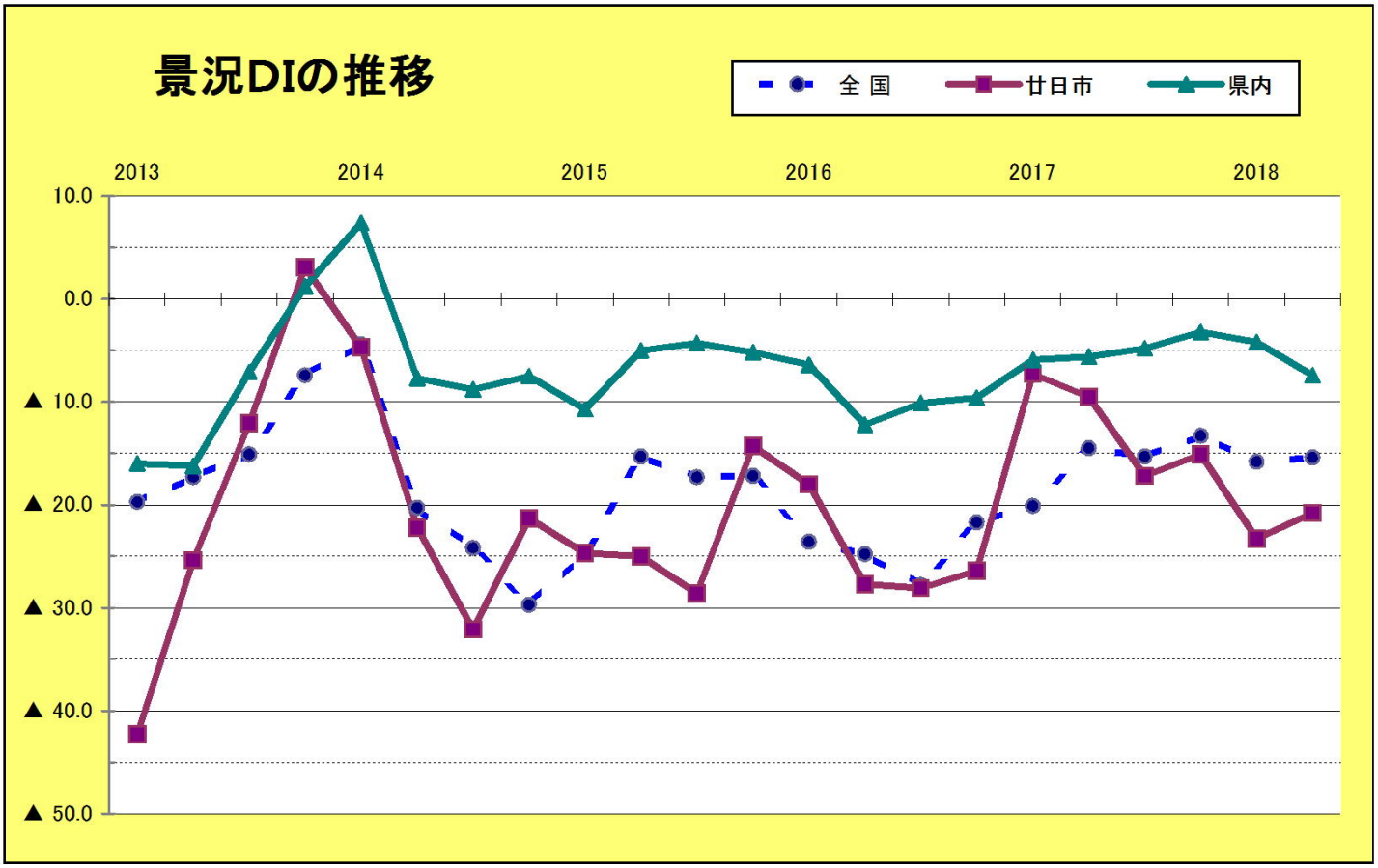
特に好調	50≦DI
好　調	25≦DI＜50
まあまあ	0≦DI＜25
不　振	▲25≦DI＜0
きわめて不振	DI＜▲25

●設備投資は？

※複数回答・無回答あり

		4～6	7月 ～ 9月 見込み
実施した	土　地	0	1
	建　物	3	4
	機　械	4	5
	車　両	6	5
	ＯＡ	3	3
	その他	2	6
	計	18	24
実施してない・しない		36	32

●当面の問題点は？

第1位	売上、需要の停滞	30.3　%
第2位	従業員、人材の確保難	18.0　%
第3位	材料費、仕入価格の上昇	10.5　%
第4位	消費者ニーズ変化への対応	6.8　%
第5位	販売単価の低下、上昇難	6.5　%

※回答の「その他」はランク外扱い